

【Ⅱ 人形峠環境技術センター周辺】

1 目的区分

鳥取県における人形峠環境技術センター周辺の環境放射線測定は、補足参考資料（平常時）に示す平常時モニタリングの目的のうち、次に掲げる目的において実施する。

なお、補足参考資料（平常時）の最低限実施が必要な項目には該当しないが、環境中の経時変化を把握する上で参考となる項目又は測定技術の保持が必要と考えられる項目については、「(参考)」として測定を継続する。

- ③ 原子力施設からの予期しない放射性物質又は放射線の放出の早期検出
及び周辺環境への影響評価

(参考) 環境中の経時変化の把握又は測定技術の保持

2 測定概要

(1) 概要

三朝町木地山に設置している固定型モニタリングポストにより、空間放射線量率、浮遊じん全 α 放射能濃度及びフッ素濃度の連続測定を行った。また栗祖ほか6か所において、蛍光ガラス線量計による積算線量の測定を行った。さらに、環境試料中の放射性核種濃度の変動を把握するために、陸水、土壌、農産物等の核種分析を行った。

(2) 実施機関

鳥取県原子力環境センター

中部総合事務所環境建築局（※人形峠環境技術センター周辺の試料採取等）

公益財団法人日本分析センター（分析委託）

(3) 実施内容

平常時モニタリングは、令和7年度環境放射線等測定計画に基づき実施した。当該計画の主な内容は、以下のとおりである。

ア 測定計画

表Ⅱ－2－1のとおり。

イ 測定地点

図Ⅱ－2－1、図Ⅱ－2－2のとおり。

ウ 測定方法及び測定機器

表Ⅱ－2－2のとおり。

(4) 測定結果の評価方法

環境放射線等測定結果の評価は、測定項目及び地点ごとに、詳細調査を開始するための閾値として過去の測定結果より「平常の変動幅」を設定し、四半期ごとに取りまとめた測定結果が「平常の変動幅」を超過した場合には、原子力施設の影響、気象や自然放射性核種等の影響などについて要因の調査を行う。

表Ⅱ－２－１ 令和７年度環境放射線等測定計画（人形峠環境技術センター周辺）

１ 空間放射線

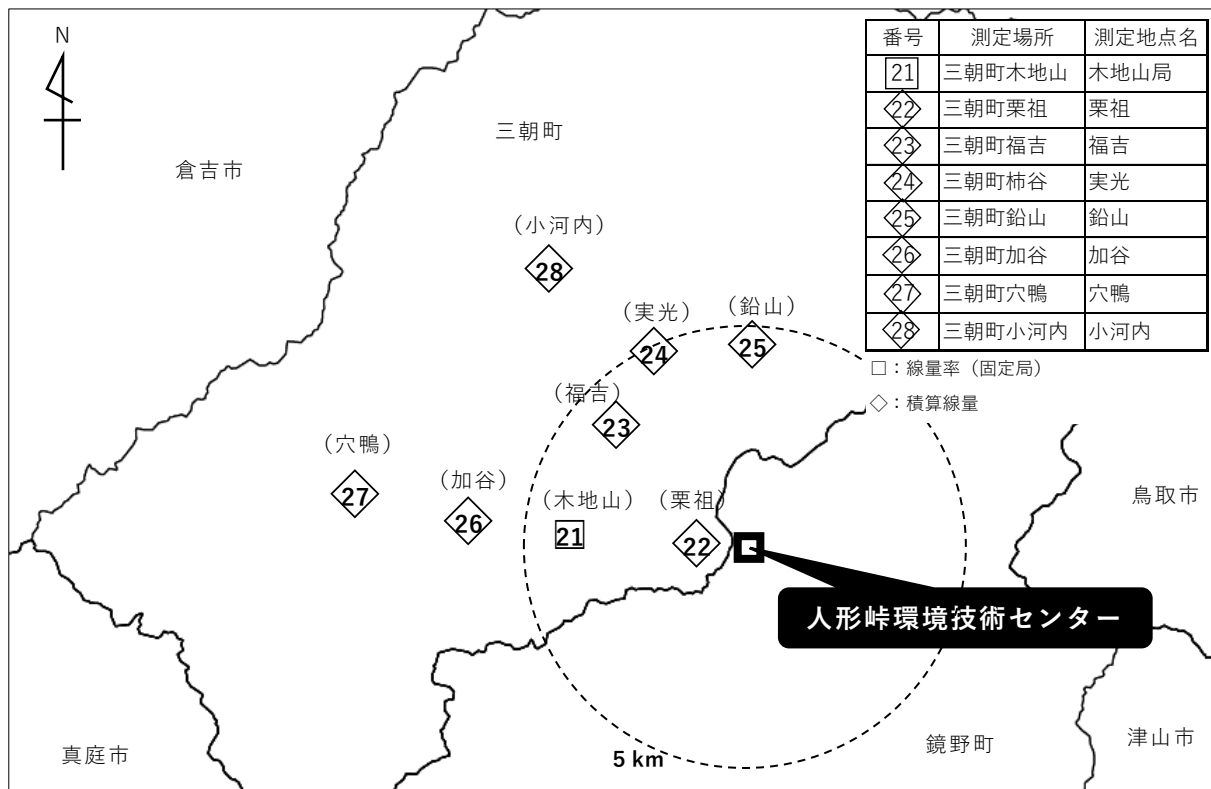
項目区分	目的 区分	測定地点	測定 地点	測定期間	測定 件数	測定機器	測定方法
空間放射線量率	(参考)	三朝町木地山(木地山局)	1	連続測定	—	NaI (TI) シンチレーション検出器 固定型モニタリングポスト	放射能測定法シリーズ「連続モニタによる環境γ線測定法」
積算線量	(参考)	三朝町栗祖（栗祖） 三朝町加谷（加谷公民館） 三朝町穴鴨（穴鴨公民館） 三朝町小河内（小河内公民館付近） 三朝町福吉（福吉公民館） 三朝町柿谷（実光公民館） 三朝町鉛山（鉛山公民館）	7	4～6月 7～9月 10～12月 1～3月	28	蛍光ガラス線量計	放射能測定法シリーズ「蛍光ガラス線量計を用いた環境γ線測定法」

２ 大気浮遊じん全α放射能、大気中フッ素

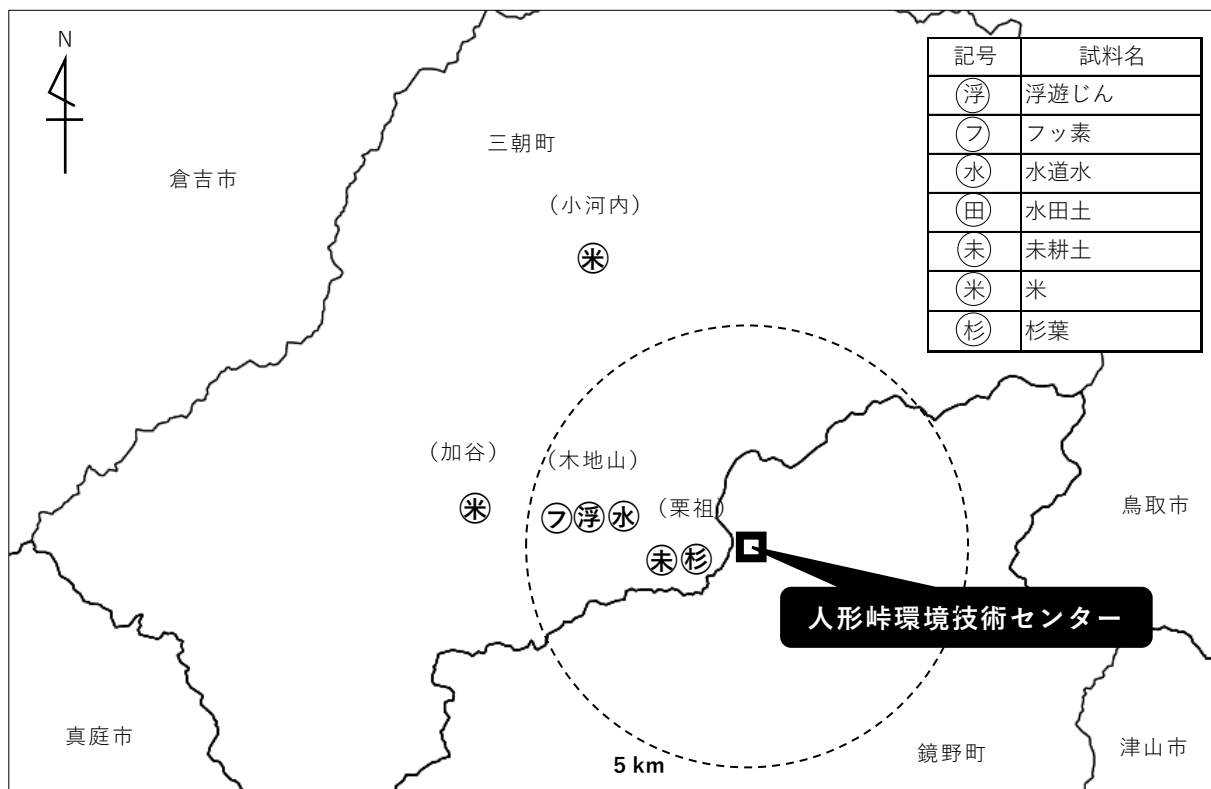
項目区分	目的 区分	測定地点	測定 地点	測定期間	測定 件数	測定機器	測定方法
大気	浮遊じん 放射能	③	三朝町木地山(木地山局)	連続測定	—	ZnS(Ag)シンチレーション検出器 固定型モニタリングポスト	放射線測定法シリーズ「全β放射能測定法」 JISZ4316「放射性ダストモニタ」
	フッ素				—	双イオン電極測定法電位差計 固定型モニタリングポスト	JISK0105「排ガス中のふっ素化合物分析方法」

３ 環境試料中の放射性核種分析

項目 区分	試料	部位	目的 区分	採取地点	採取頻度		測定項目/件数		測定機器	測定方法
					頻度	採取月	U-235	U-238		
陸水	水道水	蛇口水	(参考)	三朝町木地山	2 年毎 年 2 回	7, 11 月		2	U-238 : ICP 質量分析装置	放射能測定法シリーズ「ウラン分析法」
				三朝町小河内		R8				
土壌	水田土	表層	(参考)	三朝町加谷	3 年毎 年 2 回	R8			U-235, U-238（委託分析）： シリコン半導体検出器	放射能測定法シリーズ「ウラン分析法」
				三朝町小河内		R9				
	未耕土	表層	(参考)	三朝町栗祖		7, 11 月	2	2		
農産物	米	精米	(参考)	三朝町加谷	年 1 回	11 月	1	1	U-235, U-238（委託分析）： シリコン半導体検出器	放射能測定法シリーズ「ウラン分析法」
				三朝町小河内	年 1 回	11 月	1	1		
植物	杉葉	—	(参考)	三朝町栗祖	年 2 回	7, 11 月	2	2	U-235, U-238（委託分析）： シリコン半導体検出器	放射能測定法シリーズ「ウラン分析法」
合計							6	8		



図Ⅱ－２－１ 空間放射線量率測定地点



図Ⅱ－２－２ 環境試料採取地点

表Ⅱ－２－２ 測定法及び測定機器

調査項目			分析方法	測定機器
空間放射線	空間放射線量率	NaI 放射線量率測定装置	連続測定 放射能測定法シリーズ「連続モニタによる環境γ線測定法」	NaI (Tl) シンチレーション検出器 日立製作所製 MSR-R54-21034R1 (固定型モニタリングポスト)
	積算線量	積算線量計	3ヶ月間の積算測定 放射能測定法シリーズ「蛍光ガラス線量計を用いた環境γ線測定法」	蛍光ガラス線量計 (RPLD) 千代田テクノル製 ガラス線量計素子
大気	浮遊じん放射能	放射性ダストモニタ	連続測定 放射線測定法シリーズ「全β放射能測定法」、JISZ4316「放射性ダストモニタ」 (250 L/分で3時間集じんし、3時間経過後、3時間測定)	ZnS (Ag) シンチレーション検出器 日立製作所製 MDR-RC52-21725 (固定型モニタリングポスト)
	フッ素	大気中フッ素化合物自動計測装置	連続測定 JISK0105「排ガス中のふっ素化合物分析方法」 (イオン電極法・20 L/分で3時間捕集)	双イオン電極測定法電位差計 京都電子工業製 HF-48 (固定型モニタリングポスト)
環境試料	陸水	水試料	ICP 質量分析法 放射能測定法シリーズ「ウラン分析法」	ICP 質量分析装置 パーキンエルマージャパン製 NexION 1000
	土壌	生試料	放射化学分析	α線スペクトロメトリー (委託分析により実施)
	農産物	生試料	放射能測定法シリーズ「ウラン分析法」	
	植物	生試料	放射能測定法シリーズ「ウラン分析法」	

3 令和7年度測定結果

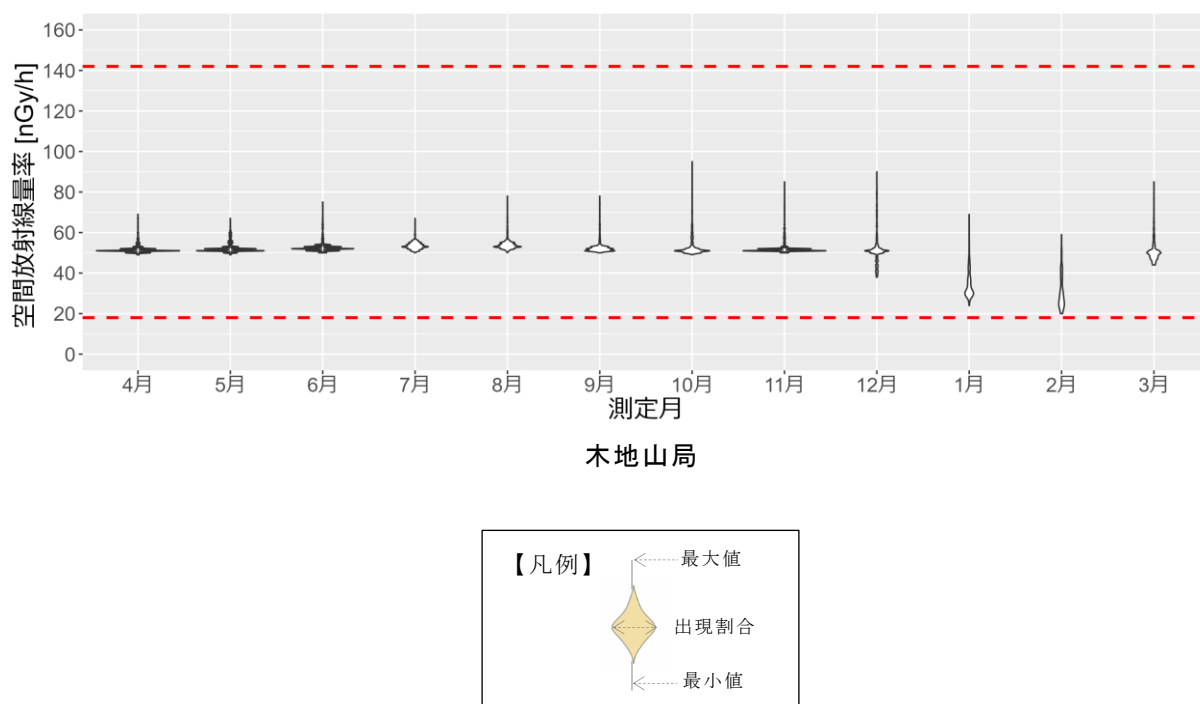
(1) 測定結果概要

令和7年度の人形峠環境技術センター周辺の環境放射線調査結果については、概ね過年度の測定結果と同レベルであり、原子力施設からの影響は認められなかった。

ア 空間放射線

(ア) 空間放射線量率連続測定（固定型モニタリングポスト）

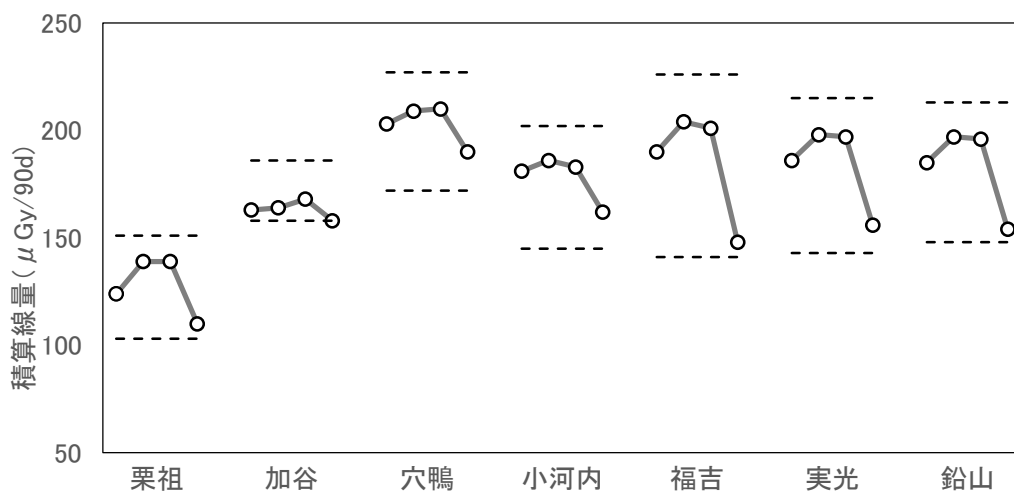
木地山局の空間放射線量率の測定結果は、平常の変動幅の範囲内であった。



図Ⅱ－３－１ 空間放射線量率連続測定結果（固定型モニタリングポスト）

(イ) 積算線量測定

積算線量の測定結果は、7 地点とも平常の変動幅の範囲内であった。



注 1：○は測定結果を示す。

注 2：点線は平常の変動幅を示す。平常の変動幅は、蛍光ガラス線量計（RPLD）による測定を H28 年度から開始したため、それ以前の熱ルミネセンス線量計による平常の変動幅を換算したもの。

図Ⅱ－３－２ 積算線量の測定結果

イ 大気浮遊じん全 α 放射能

第 2 四半期の木地山局の大気浮遊じん全 α 放射能の最高値（299 mBq/m³）について、平常の変動幅の上限（297 mBq/m³）を超過した。平成 28 年度の測定開始からの測定実績は 1 ～ 412 mBq/m³で、過去の測定範囲内にあることから、一時的にラドン子孫核種の影響が全 α 放射能の変動に影響した可能性があると考えられた。

表Ⅱ－３－１ 大気浮遊じん全 α 放射能の連続測定結果

項目	最高値	最低値	平常の変動幅	単位
全 α 放射能	299	1	1 ～ 297	mBq/m ³

注 1：全 α 放射能は 250 L/分で 3 時間集じんし、3 時間経過後、3 時間測定。

注 2：全 α 放射能は、平成 28 年度に測定方法を変更しており（集塵後の経過時間を 6 時間から 3 時間に変更）、平成 14～27 年度までの測定値を 3 時間経過後に測定したときの値に変換しているため暫定値とする。

注 3：下線部は平常の変動幅の範囲外であることを示す。

ウ 大気中フッ素

ダストモニタによる大気中フッ素の連続測定結果は、検出下限値未満であった。

表Ⅱ－３－２ 大気中フッ素の連続測定結果

項目	$1.0 \times 10^{-4} \text{ mg/m}^3$ 注 2 以上の回数	最高値 ($\times 10^{-4} \text{ mg/m}^3$)	平常の変動幅 ($\times 10^{-4} \text{ mg/m}^3$)
フッ素	0	—	ND

注 1：フッ素は、20 L/分で 3 時間吸引し測定

注 2：大気中フッ素の検出下限値

エ 環境試料中の放射性核種

(ア) U-235 分析

栗祖で採取した未耕土から検出された U-235 (1.2, 1.3 Bq/kg 乾土) は、平常の変動幅を超過 (0.41 ~ 0.97 Bq/kg 乾土) したが、原子力施設の測定値等の異常は確認されておらず、過去の測定実績 (0.28 ~ 5.9 Bq/kg 乾土) の範囲内であることから、自然変動によるものと考えられた。

栗祖で採取した植物(杉葉)から検出された U-235 (0.61 mBq/kg 生) は、平常の変動幅の範囲内 (ND ~ 0.67 mBq/kg 生) であった。

表Ⅱ－３－３ U-235 の分析結果の概要

区分	試料	栗祖		加谷		小河内		単位
		測定結果	平常の変動幅	測定結果	平常の変動幅	測定結果	平常の変動幅	
土壌	水田土			(令和 8 年度 測定予定)	0.91~ 1.7	(令和 9 年度 測定予定)	1.0~ 1.8	Bq/kg 乾土
	未耕土	<u>1.2</u> <u>1.3</u>	0.41~ 0.97					
農産物	米			ND	ND	ND	ND	mBq/kg 生
植物	杉葉	ND 0.61	ND ~ 0.67					

注 1：「平常の変動幅」は、前年度までの 10 年間 (H27~R06 年度) の最小値から最大値のまでの範囲とする。

注 2：ND は検出下限値 (計数誤差の 3 倍 (3σ)) 未満を示す。

注 3：下線部は平常の変動幅の範囲外であることを示す。

(イ) U-238 分析

栗祖で採取した杉葉から検出された U-238 (6.7, 11 mBq/kg 生) は、平常の変動幅の範囲内 (5.7 ~ 13 mBq/kg 生) であった。

栗祖で採取した未耕土から検出された U-238 (27, 29 Bq/kg 乾土) は、平常の変動幅を超過 (12 ~ 22 Bq/kg 乾土) したが、原子力施設で異常値等は確認されておらず、過去の測定実績 (8.7 ~ 150 Bq/kg 乾土) の範囲内であることから、自然変動によるものと考えられた。

木地山で採取した水道水は、定量下限値未満であった。

表Ⅱ－３－４ U-238 の分析結果の概要

区分	試料	木地山		栗祖		加谷		小河内		単位
		測定結果	平常の変動幅	測定結果	平常の変動幅	測定結果	平常の変動幅	測定結果	平常の変動幅	
陸水	水道水	<LOQ	<LOQ ~ 0.09					(令和 8 年度 測定予定)	1.8 ~ 3.8	mBq/L
		<LOQ								
土壌	水田土					(令和 8 年度 測定予定)	22 ~ 34	(令和 9 年度 測定予定)	27 ~ 43	Bq/kg 乾土
	未耕土			<u>27</u> <u>29</u>	12 ~ 22					
農産物	米					ND	ND ~ 0.58	ND	ND ~ 0.70	mBq/kg 生
植物	杉葉			6.7 11	5.7 ~ 13					

注 1: 「平常の変動幅」は、前年度までの 10 年間 (H27~R06 年度) の最小値から最大値のまでの範囲とする。

注 2: <LOQ は定量下限値 (信号の標準偏差の 10 倍 (10σ)) 未満

注 3: ND は検出下限値 (計数誤差の 3 倍 (3σ)) 未満を示す。

注 4: 下線部は平常の変動幅の範囲外であることを示す。

(2) 測定項目別の結果

ア 空間放射線

(ア) 空間放射線量率連続測定 (固定型モニタリングポスト)

表Ⅱ-3-5 固定型モニタリングポストの連続測定結果(1時間値)

(単位: n Gy/h)

測定地点	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間	平常の変動幅
木地山局	最高値	69	67	75	67	78	78	95	85	90	69	59	85	95	142
	最低値	49	49	50	50	50	50	49	50	38	24	20	44	20	18
	平均値	52	52	53	54	54	53	53	52	52	35	31	51	49	

注1: 空間放射線量率は1時間値

注2: 「変動幅」は、前年度までの5年間(R02～R06年度)の最小値から最大値までの範囲とする。

(イ) 積算線量測定

表Ⅱ-3-6 積算線量の測定結果

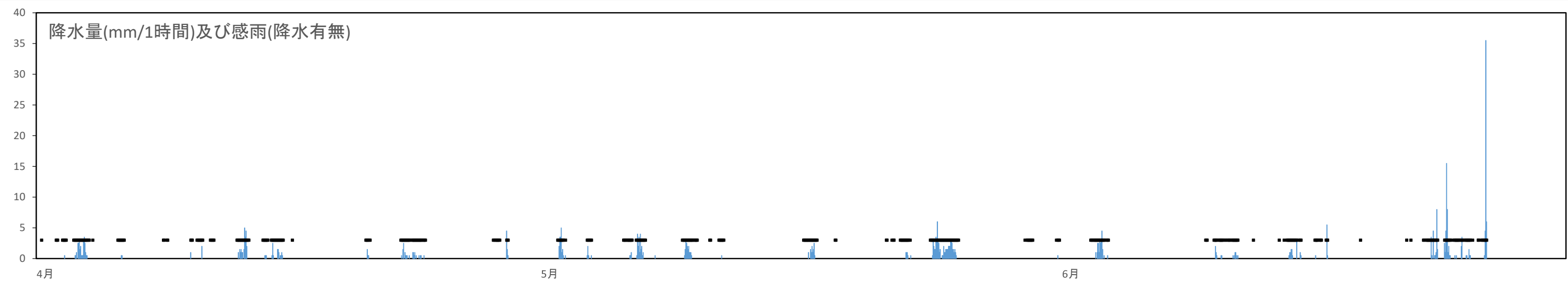
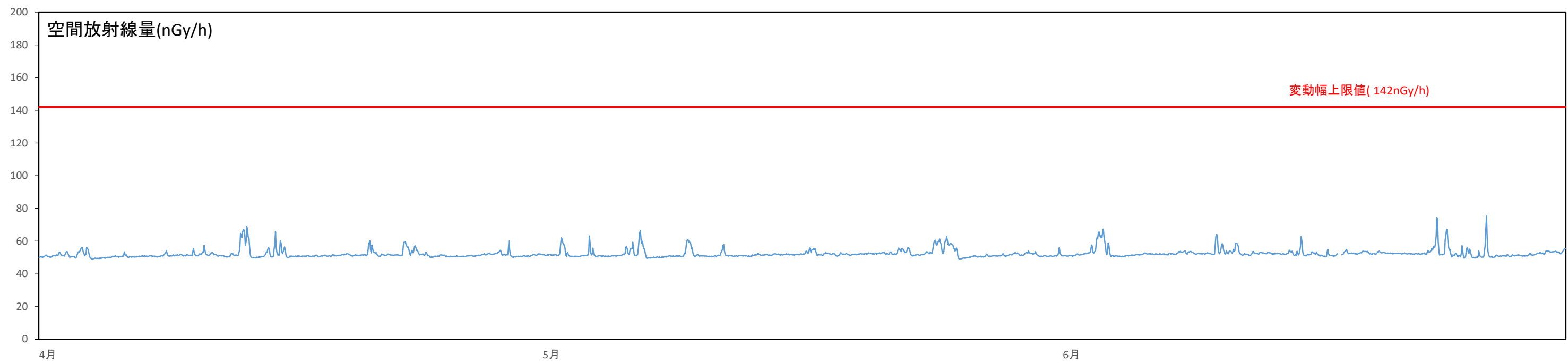
(単位: 上段 μ Gy/90d、下段 μ Gy/h)

測定地点	第1四半期 (3～5月)	第2四半期 (6～8月)	第3四半期 (9～11月)	第4四半期 (12～2月)	平常の変動幅 (暫定値)	年間線量 (mGy/365d)
栗祖	124 (0.057)	139 (0.064)	139 (0.064)	110 (0.051)	103 ～ 151 (0.048 ～ 0.070)	0.52
加谷公民館	163 (0.075)	164 (0.076)	168 (0.078)	158 (0.073)	158 ～ 186 (0.073 ～ 0.086)	0.66
穴鴨公民館	203 (0.094)	209 (0.097)	210 (0.097)	190 (0.088)	172 ～ 227 (0.080 ～ 0.105)	0.82
小河内 公民館付近	181 (0.084)	186 (0.086)	183 (0.085)	162 (0.075)	145 ～ 202 (0.067 ～ 0.094)	0.72
福吉公民館	190 (0.088)	204 (0.094)	201 (0.093)	148 (0.069)	141 ～ 226 (0.062 ～ 0.105)	0.75
実光公民館	186 (0.086)	198 (0.092)	196 (0.091)	156 (0.072)	143 ～ 215 (0.066 ～ 0.100)	0.75
鉛山公民館	185 (0.086)	197 (0.091)	229 (0.106)	154 (0.071)	148 ～ 213 (0.069 ～ 0.099)	0.78

注1: 下段の数値は、当該期間における1時間当たりの線量率に換算したもの。

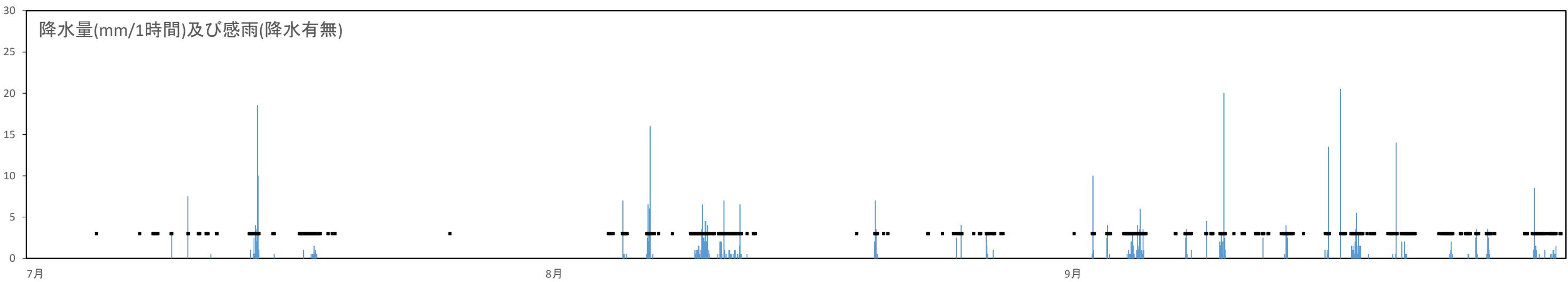
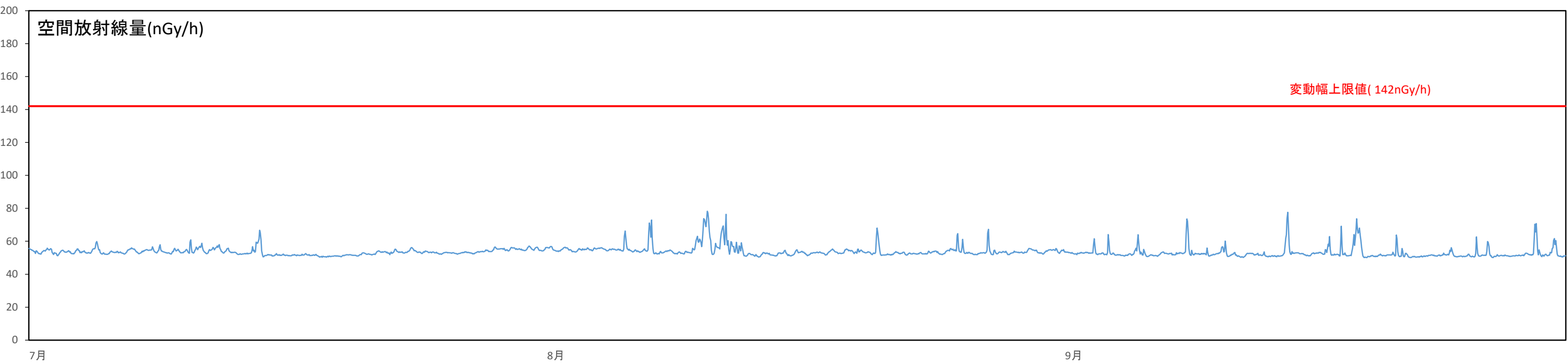
注2: 「平常の変動幅」は、各地点における前年度までの10年間(H27～R06年度)の最小値から最大値までの範囲とする。

木地山局



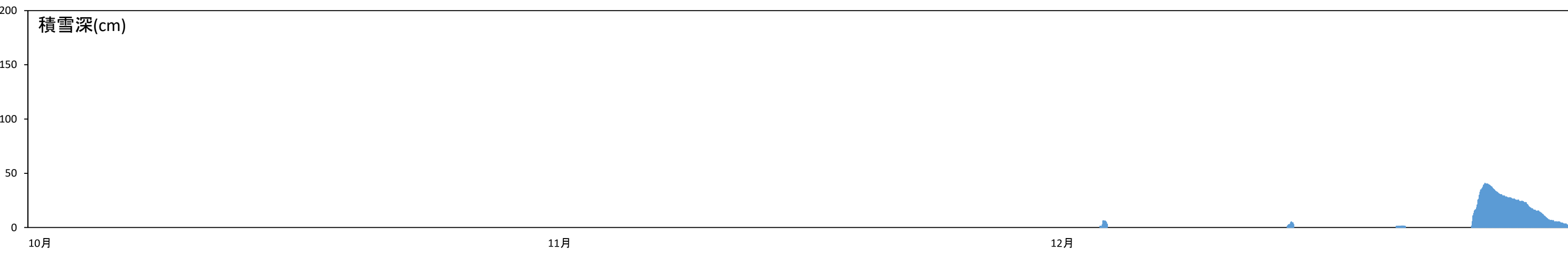
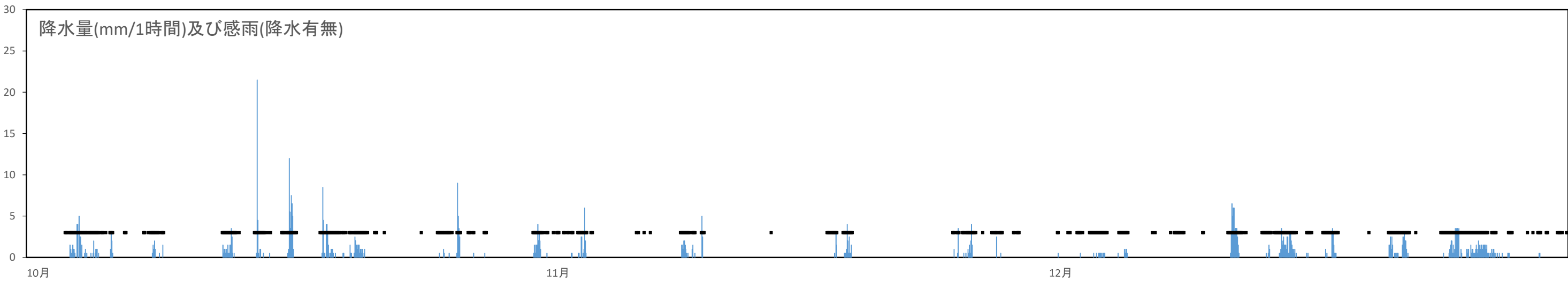
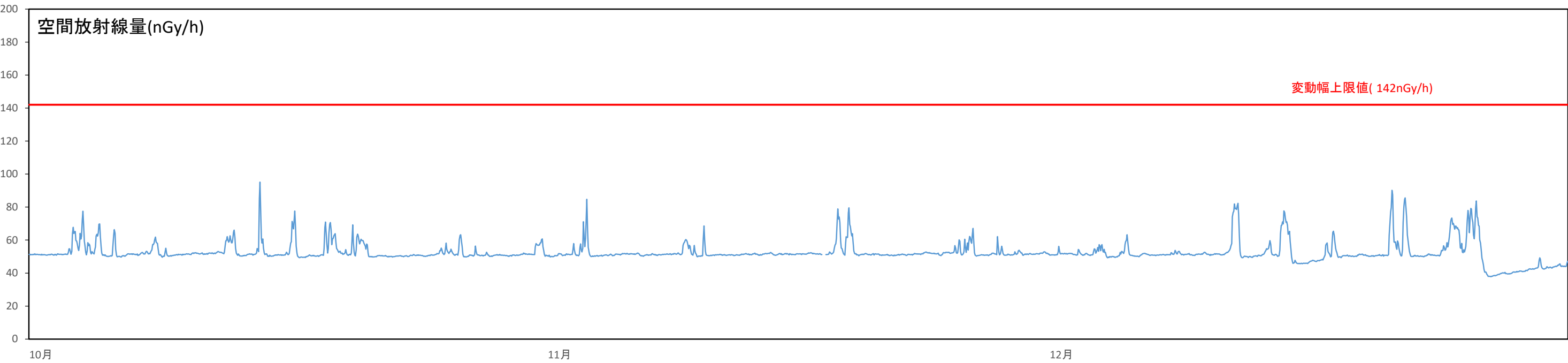
図Ⅱ－3－3a 空間放射線量率と降水・積雪の関係(令和7年度第1四半期、1時間値)

木地山局



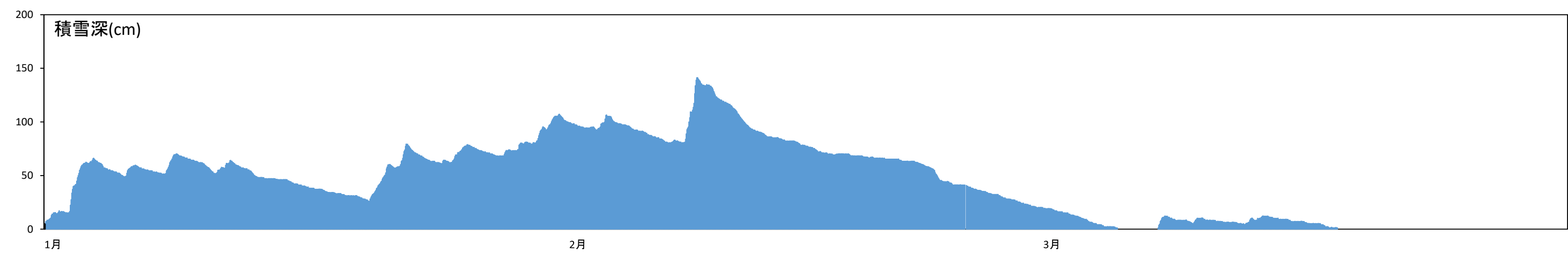
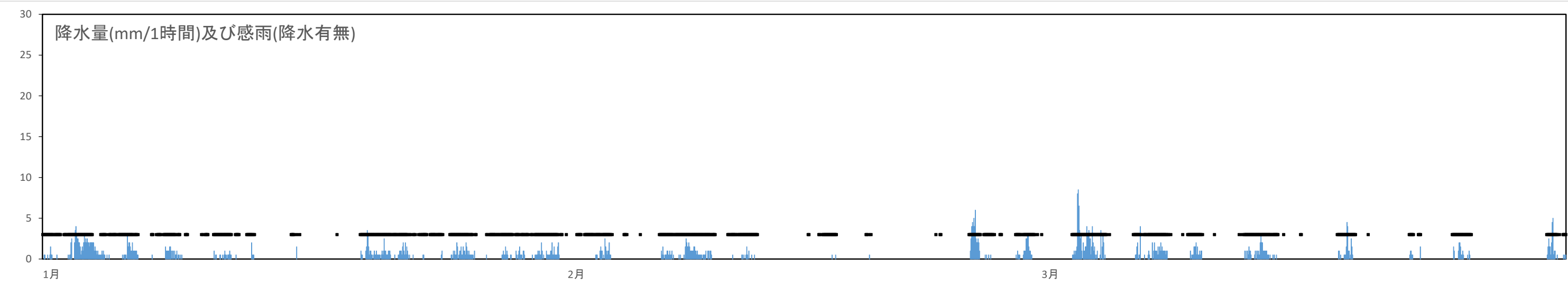
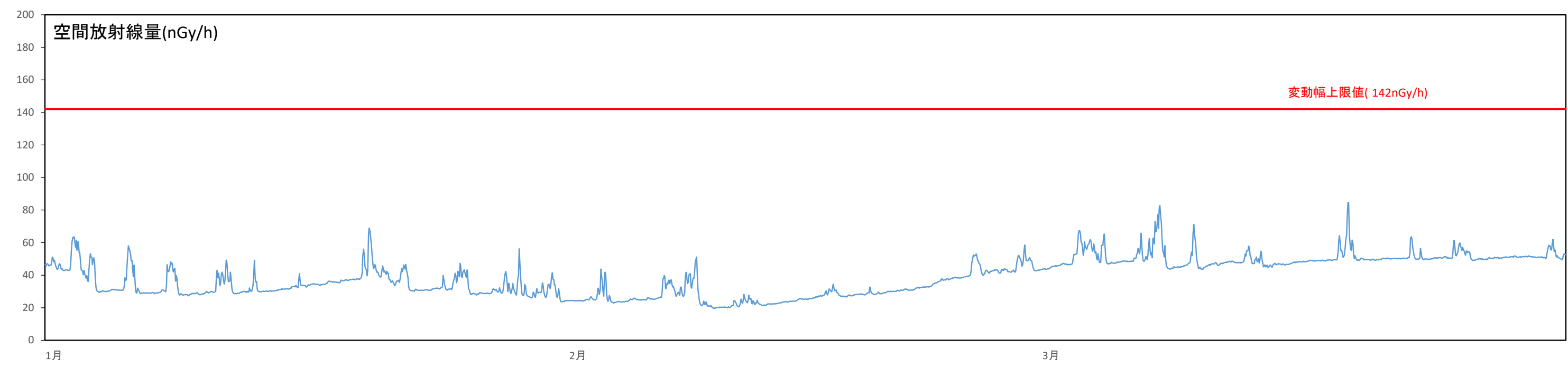
図Ⅱ－3－3b 空間放射線量率と降水・積雪の関係(令和7年度第2四半期、1時間値)

木地山局



図Ⅱ－3－3c 空間放射線量率と降水・積雪の関係(令和7年度第3四半期、1時間値)

木地山局



図Ⅱ－3－3d 空間放射線量率と降水・積雪の関係(令和7年度第4四半期、1時間値)

イ 大気浮遊じん全 α 放射能の連続測定

表Ⅱ－３－７ 大気浮遊じん全 α 放射能の測定結果

項目	地点	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間	平常の変動幅
全 α 放射能 (mBq/m ³)	木地山局	最高値	146	158	187	<u>299</u>	230	151	85	88	88	53	50	105	299	297
		最低値	2	2	3	2	12	4	3	6	3	1	2	2	1	1
		平均値	38	36	50	60	78	35	25	35	26	15	18	24	37	

注1:250 L/分で3時間集じんし、3時間経過後、3時間測定

注2:「平常の変動幅」は、前年度までの5年間(R02～R06年度)の最小値から最大値までの範囲とする。

注3:全 α 放射能は、平成28年度に機器更新し測定方法を変更しているため(集塵後の経過時間を6時間から3時間に変更)、平成28年度からの測定値を「測定開始時からの測定値」とした。

注4:下線部は平常の変動幅の範囲外であることを示す。

ウ 大気中フッ素の連続測定

表Ⅱ－３－８ 大気中フッ素の測定結果

項目	地点	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間	平常の変動幅
フッ素 ($\times 10^{-4}$ mg/m ³)	木地山局	1.0以上の回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	ND
		最高値	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

注1:20 L/分で3時間吸引し測定

注2:「平常の変動幅」は、前年度までの5年間(R02～R06年度)の範囲とする。

注3:大気中フッ素の検出下限値は 1.0×10^{-4} mg/m³

エ 環境試料中の放射性核種等

(ア) 陸水

表Ⅱ－３－９ 陸水の測定結果

試料	部位	採取地点	採取年月日	U-238 (mBq/L)	
				測定結果	平常の変動幅
水道水	蛇口水	三朝町栗祖 (本地山)	R07. 07. 17	<LOQ	<LOQ～0. 085
			R07. 11. 20	<LOQ	

注1:「平常の変動幅」は、R03～R06年度の最小値から最大値までの範囲とする。
注2:<LOQは定量下限値未満を示す。

(イ) 土壌

表Ⅱ－３－10 土壌の測定結果

試料	部位	採取地点	採取 年月日	U-235 (Bq/kg乾土)		U-238 (Bq/kg乾土)	
				測定 結果	平常の 変動幅	測定 結果	平常の 変動幅
未耕土	表層	三朝町栗祖	R07. 07. 17	<u>1. 2</u>	0. 41～0. 97	<u>27</u>	12～22
			R07. 11. 20	<u>1. 3</u>		<u>29</u>	

注1:「平常の変動幅」は、前年度までの10年間(H26～R05年度)の最小値から最大値までの範囲とする。
注2:下線部は平常の変動幅の範囲外の結果であることを示す。

(ウ) 農産物

表Ⅱ－３－11 農産物の測定結果

試料	部位	採取地点	採取 年月日	U-235 (mBq/kg生)		U-238 (mBq/kg生)	
				測定結果	平常の変動幅	測定結果	平常の変動幅
米	精米	三朝町加谷	R07. 12. 16	ND	ND	ND	ND ～ 0. 58
		三朝町小河内	R07. 12. 16	ND	ND	ND	ND ～ 0. 70

注1:NDは検出下限値未満を示す。
注2:「平常の変動幅」は、前年度までの10年間(H27～R06年度)の最小値から最大値までの範囲とする。
注3:加谷はR01年度より採取地点を変更した。

(エ) 植物

表Ⅱ－３－12 植物の測定結果

試料	部位	採取地点	採取 年月日	U-235 (mBq/kg生)		U-238 (mBq/kg生)	
				測定結果	平常の変動幅	測定結果	平常の変動幅
杉葉	－	三朝町栗祖	R07. 07. 17	ND	ND ～ 0. 67	6. 7	5. 7 ～ 13
			R07. 11. 20	0. 61		11	

注1:NDは検出下限値未満を示す。
注2:「平常の変動幅」は、前年度までの10年間(H27～R06年度)の最小値から最大値までの範囲とする。
注3:R01年度より採取地点を変更した。

4 令和8年度の平常の変動幅の設定について

令和7年度の測定結果を踏まえ、令和8年度の平常の変動幅を（１）～（３）のとおりに設定する。なお、測定計画の見直し等により、令和5年度までに測定終了となった測定項目については、参考として（４）に示す。

○空間放射線量、大気浮遊じん全 α 放射能の連続測定

過去5年間の測定値の最小値から最大値までの範囲とする。

○積算線量測定、環境試料の核種分析

過去10年間の測定値の最小値から最大値までの範囲とする。

（１）空間放射線

ア 空間放射線量率連続測定（固定型モニタリンポスト）

（単位：nGy/h）

地点	平常の変動幅		測定開始時（H14）からの測定値	
	最小値から最大値	最大値の発生月日	最小値から最大値	最大値の発生月日
木地山局	18 ～ 142	R05.01.10 01:00	13 ～ 142	R05.01.10 01:00

※「平常の変動幅」は、前年度までの5年間（R02～R06年度）の最小値から最大値までの範囲とする。

イ 積算線量測定

（単位： μ Gy/90d）

地点	平常の変動幅		測定開始時（H14）からの測定値	
	最小値から最大値	最大値の発生年月	最小値から最大値	最大値の発生年月
栗祖	103 ～ 151	R01.9～11	77 ～ 179	H14.9～11
加谷	158 ～ 186	R01.9～11	113 ～ 218	H24.9～11
穴鴨	172 ～ 227	R01.9～11	101 ～ 311	H19.6～8
小河内	145 ～ 202	R01.9～11	110 ～ 221	H18.12～H19.2
福吉	141 ～ 219	H30.7～9	121 ～ 243	H19.3～5
実光	143 ～ 213	R01.10～12	113 ～ 221	H19.9～11
鉛山	148 ～ 213	R01.9～11	89 ～ 247	H20.9～11

※ 「平常の変動幅」は、各地点における前年度までの10年間（H28～R07年度）の最小値から最大値までの範囲とする。H14～H27年度はTLD、H28年度以降はRPLDによる測定値）

（２）大気浮遊じん全 α 放射能、大気中フッ素の連続測定（固定型モニタリングポスト）

地点	項目	平常の変動幅		測定開始時（H14）からの測定値		単位
		最小値から最大値	最大値の発生日時	最小値から最大値	最大値の発生日時	
木地山局	全 α 放射能	1 ～ 299	R07.07.02 09:00	1 ～ 412	H30.07.15 11:00	mBq/m ³
	フッ素	0 ～ 0.74	R05.12.05 20:00	0 ～ 2.02	H18.10.07 22:00	10 ⁻⁴ mg/m ³

※ 「平常の変動幅」は、各地点における前年度までの5年間（R03～R07年度）の最小値から最大値までの範囲とする。

※ 全 α 放射能は、平成28年度に機器更新し測定方法を変更しているため（集塵後の経過時間を6時間から3時間に変更）、平成28年度からの測定値を「測定開始時からの測定値」とした。

※ フッ素は、令和7年度より検出下限値(1.0 × 10⁻⁴ mg/m³)を設定した。

(3) 環境試料中の放射性核種分析

項目 区分	試料	地点	U-235		単位	測定期間
			平常の変動幅	測定開始時からの 最小～最大値		
土壌	水田土	加谷	0.94 ～ 1.7 (R01.07, R03.07)	0.77 ～ 1.8 (H20.07)	Bq/kg 乾土	H13～R07
		小河内	1.0 ～ 1.8 (H29.11)	0.87 ～ 1.8 (H29.11)		
	未耕土	栗祖	0.48 ～ 1.3 (R07.11)	0.28 ～ 5.9 (H22.11)		
農産物	米	加谷	ND (－)	ND (－)	mBq/kg 生	H13～R07
		小河内	ND (－)	ND (－)		
植物	杉葉	栗祖	ND ～ 0.67 (R01.11)	ND ～ 1.0 (H17.07)	mBq/kg 生	H13～R07

※ 「平常の変動幅」は、各地点における前年度までの10年間（H28～R07年度）の最小値から最大値までの範囲とする。

※ 数値の下の（ ）は最大値の採取年月を示す。

※ 樹葉は、R01年度より採取地点を変更。

項目 区分	試料	地点	U-238		単位	測定期間
			平常の変動幅	測定開始時からの 最小～最大値		
陸水	水道水	栗祖 (木地山)	<LOQ ～ 0.085 (R04.07)	<LOQ ～ 0.085 (R04.07)	mBq/L	R03～R07
		小河内	3.2 ～ 3.5 (R06.11)	3.2 ～ 3.5 (R06.11)		
土壌	水田土	加谷	22 ～ 34 (R05.07)	22 ～ 44 (H20.07)	Bq/kg 乾土	H13～R07
		小河内	27 ～ 43 (H29.11)	26 ～ 43 (H29.11)		
	未耕土	栗祖	16 ～ 29 (R07.11)	8.7 ～ 150 (H22.11)		
農産物	米	加谷	ND ～ 0.58 (R06.11)	ND ～ 1.3 (H22.11)	mBq/kg 生	H13～R07
		小河内	ND ～ 0.70 (R05.11)	ND ～ 1.6 (H18.11)		
植物	杉葉	栗祖	5.7 ～ 13 (R01.11)	4.0 ～ 35 (H17.07)	mBq/kg 生	H13～R07

※ 「平常の変動幅」は、各地点における前年度までの10年間（H28～R07年度）の最小値から最大値までの範囲とする。

※ 数値の下の（ ）は最大値の採取年月を示す。

※ 樹葉は、R01年度より採取地点を変更。

※ 陸水はR03年度から測定方法をα線スペクトロメリーからICP質量分析法に変更。

(4) 令和5年度までに測定終了した測定項目【参考】

ア 空間放射線量率巡回測定（モニタリング車）

地点	測定開始からの 最小から最大値	単位	最大値の 測定年月日	測定 期間
栗祖	23 ～ 130	nGy/h	H16. 11. 19	H14～ R04
福吉	30 ～ 82		R01. 05. 31	
実光	27 ～ 61		R01. 05. 31	
鉛山	22 ～ 64		H14. 11. 22	

イ 大気浮遊じん全 α 及び全 β 放射能巡回測定（モニタリング車）

測定 地点	全 α 放射能		全 β 放射能		単位	測定 期間
	測定開始時からの 最小～最大値	最大値の 測定年月日	測定開始時からの 最小～最大値	最大値の 測定年月日		
栗祖	110 ～ 3, 180	H23. 08. 29	570 ～ 8, 220	H29. 06. 01	mBq/m ³	H14～ R04
福吉	150 ～ 4, 950	H24. 02. 07	360 ～ 14, 800	R02. 09. 01		
実光	230 ～ 18, 400	H16. 11. 19	560 ～ 25, 200	H16. 11. 19		
鉛山	150 ～ 4, 190	H16. 11. 19	480 ～ 9, 970	R02. 09. 01		

※ 「平常の変動幅」は、各地点における前年度までの10年間（H25～R04年度）の最小値から最大値までの範囲とする。

ウ 環境試料中の放射性核種分析（U-238、Ra-226）

項目 区分	試料	地点	U-238		Ra-226		単位	測定 期間
			測定開始時からの 最小～最大値	最大値の 測定年月	測定開始時からの 最小～最大値	最大値の 測定年月		
陸水	河川水	栗祖	ND ～ 3. 8	H25. 11	ND～2. 6	H25. 11	mBq/L	H13～ R04
		加谷	ND ～ 0. 70	H25. 11	ND	—		
		穴鴨	ND ～ 0. 53	H23. 07	ND	—		
		小河内	ND ～ 1. 4	H19. 01	ND	—		
	飲料水	栗祖	ND ～ 0. 54	H19. 1	ND	—		H13～ R02
		加谷	ND ～ 3. 9	H13. 12	ND	—		H13～ R04
		穴鴨	ND ～ 0. 91	R02. 01	ND	—		H13～ R02
		小河内	1. 5 ～ 4. 3	H13. 12	ND	—		
土壌	河底土	栗祖	7. 3 ～ 79	H13. 12	20 ～ 81	H26. 11	Bq/kg 乾土	H13～ R04
		加谷	6. 4 ～ 23	H13. 12	12 ～ 38	H13. 12		
		穴鴨	8. 3 ～ 27	H22. 11	14 ～ 42	H21. 06		
		小河内	8. 5 ～ 36	H21. 06	21 ～ 56	H17. 11		

項目 区分	試料	地点	U-238		Ra-226		単位	測定 期間
			測定開始時から の最小～最大値	最大値の 測定年月	測定開始時から の最小～最大値	最大値の 測定年月		
土壌	水田土	加谷	測定継続		22 ～ 47	H17. 11	Bq/kg 乾土	H13～ R04
		穴鴨	17 ～ 56	H19. 11	32 ～ 56	H19. 11		
		小河内	測定継続		50 ～ 77	H16. 06, H17. 07		
	畑土	穴鴨	21 ～ 52	H15. 11	30 ～ 58	H13. 12		
		小河内	25 ～ 50	H16. 11	51 ～ 80	H19. 11		
	未耕土	栗祖	測定継続		16 ～ 220	H22. 11		
		加谷	19 ～ 32	H19. 06	24 ～ 40	H28. 07		
農産物	米	加谷	測定継続		ND	—	mBq/kg 生	H13～ R04
		小河内	測定継続		ND～79	H29. 11		
	野菜 (仔類)	加谷	ND ～ 1. 0	H24. 07	ND	—		H15～ R04
		小河内	ND ～ 0. 91	H18. 07	ND	—		
	野菜 (ダイコン (根))	加谷	ND ～ 0. 61	R02. 11	ND ～ 27	H30. 11		H13～ R04
		小河内	ND ～ 0. 91	H17. 11	ND ～ 90	H17. 11		
	野菜 (タマネギ)	小河内	ND	—	ND ～ 75	H30. 06		H15～ R04
植物	杉葉	栗祖	測定継続		310 ～ 1,900	H18. 07	mBq/kg 生	H13～ R04

※ 樹葉は、R01 年度より採取地点を変更。

エ 環境試料中の放射性核種分析（全β放射能、フッ素）

項目 区分	試料	地点	全β放射能		フッ素		単位	測定 期間
			測定開始時から の最小～最大値	最大値の 測定年月	測定開始時から の最小～最大値	最大値の 測定年月		
陸水	河川水	栗祖	—	—	0.023 ～ 0.032	R04.11	mg/L	H13～ R04
					0.03 ～ 0.05	5回検出		
		加谷	—	—	0.032 ～ 0.038	R04.11		
					0.03 ～ 0.05	9回検出		
		穴鴨	—	—	0.036 ～ 0.042	R03.07		
					0.03 ～ 0.05	16回検出		
	飲料水	小河内	—	—	0.033 ～ 0.043	R03.07		
					0.03 ～ 0.06	H20.01, H23.01		
		栗祖	—	—	0.026 ～ 0.034	R03.07		
					0.02 ～ 0.06	H16.11		
		加谷	—	—	0.048 ～ 0.051	R04.11		
					0.04 ～ 0.06	40回検出		
		穴鴨	—	—	0.045 ～ 0.052	R04.05		
					0.04 ～ 0.07	H16.06		
		小河内	—	—	0.059 ～ 0.062	R03.08		
					0.05 ～ 0.09	H20.01		
土壌	河底土	栗祖	710 ～ 1,300	H24.07, H25.06	120 ～ 210	H16.07	全β： Bq/kg 乾土 フッ 素： mg/kg 乾土	H13～ R04
		加谷	740 ～ 1,100	H22.07	110 ～ 240	H26.11		
		穴鴨	760 ～ 1,200	H28.11	150 ～ 300	H21.06		
		小河内	830 ～ 1,600	H16.11	120 ～ 320	H15.11		
	水田土	加谷	810 ～ 1,000	6回検出	210 ～ 340	H22.11, R01.11		
		穴鴨	850 ～ 1,200	7回検出	160 ～ 360	H19.11, R01.11		
		小河内	970 ～ 1,400	H16.06	240 ～ 450	H16.11		
	畑土	穴鴨	780 ～ 1,000	H15.02, H23.07	270 ～ 760	R03.07		
		小河内	910 ～ 1,300	H16.11, H18.11, R02.11	230 ～ 520	R02.11		
	未耕土	栗祖	660 ～ 1,900	H22.11	140 ～ 380	H22.11		
		加谷	760 ～ 980	R02.07	190 ～ 360	H28.07		

項目 区分	試料	地点	全 β 放射能		フッ素		単位	測定 期間
			測定開始時から の最小～最大値	最大値の 測定年月	測定開始時から の最小～最大値	最大値の 測定年月		
農産物	米	加谷	—	—	ND ～ 0.6	H13. 12	mg/kg 生	H13～ R04
		小河内	—	—	ND ～ 0.5	H13. 12		
	野菜 (稲類)	加谷	—	—	ND ～ 0.2	H24. 07		H15～ R04
		小河内	—	—	ND ～ 0.2	H28. 07		
	野菜 (ダイコン 根)	加谷	—	—	ND ～ 0.06	H17. 11		H13～ R04
		小河内	—	—	ND ～ 0.1	H17. 11		
	野菜 (タマネギ)	小河内	—	—	ND ～ 0.07	R01. 07		H15～ R04
植物	杉葉	栗祖	—	—	0.27 ～ 1.3	H20. 11, R01. 07	mg/kg 生	H13～ R04

※ フッ素の陸水は、R3 年度からイオンメーターからイオンクロマトグラフに測定方法を変更したことから、
上段にイオンクロマトグラフ(R3～R4)、下段にイオンメーター(H13～R2)の測定結果を示す。

※ 植物は、R01 年度より採取地点を変更。